

会報 わかくさの風

No.23

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

「災い転じて福となす」の 新たな気持ちでスタート

〜頑張ります！今年もよろしくお願ひします〜

新型コロナウイルス感染症の拡大の中で2021年の幕開けとなりました。社会全体の活動が停滞し、気持ちが悪くつきりしません。しかし、昨年を振り返ってみますと、コロナ禍の中でも個々の事情も考慮して、作業所を閉所することなく縮小開所してきました。利用者・家族、関係事業所の皆さんに深く感謝申し上げます。

このような中であつてもいくつかの新しい発見・取り組みがありました。ひとつは利用者自身の持つ力の発見です。GH（グループホーム）のある入居者は発熱が続き、PCR検査を受けました。結果が出るまでに2日程かかりました。結果によっては濃厚接触者の広がりも見込まれましたので、この間、他の利用者との接触、GH内での行動範囲を制限せざるを得ませんでした。

テレビを見るのを楽しみにしています。リビングに来たかったのではないのでしょうか。結果が出るまでの2日間、約束を守りました。陰性でした。見事！！このような力があることをあらためて発見しました。このような新たな発見は職員の励ましにもなり、力にもなります。今、元気に作業所に通所しております。

また、次のようなことがありました。GHで陽性者が出た場合、保健所の指示に従うことになりました。しかし自宅療養となった場合、どこで療養することになるのでしょいか。GHは入居者にとって自宅です。GHで療養することになります。このような場合、GHで濃厚接触者が発生することにもなりません。そうするとGHで生活するしかありません。職員も大きな不安を抱えることになりました。作業所に通所もできませんので、日中の支援も必要となります。基礎疾患を抱える職員もいますので、そのような職員への配慮も必要となります。限定された職員が24時間、

食事や入浴介助、洗濯などの家事援助が必要となります。このような環境の中では職員自身の疲弊も心配されます。

このような現状を察して、3作業所の施設長会議で固定したメンバーからなる応援チームを編成したという提案をいただきました。逃げ場のない状態に置かれる入居者の生活を、法人の全事業所上げて守ろうという機運が高まっています。現在、各事業所で話し合いをしています。結果を楽しみにしています。

このようにコロナ禍をマイナスの側面からとらえることなく、その対応を模索しながら利用者支援の原点を確認しあえる事業所・法人でありたいと願っております。苦しい時、苦悩を抱える時こそ、「災い転じて福となす」の気持ちで、明るくしかも堅実に対応したいと考えております。

本年も本会にお力添えをいただきますように心からお願ひ申し上げます。

皆さまにとって、「幸せな年」でありますよう心からご祈念申し上げます。

2021年1月

社会福祉法人 戸田わかくさ会
理事長 横山 ユタカ
統括施設長 竹嶋 紘

戸田わかくさ会 コロナ対策

皆様新年あけましておめでとう
ございます。

皆様もご存じのとおり、コロナの感染拡大が止まらず緊急事態宣言が再び発出されました。戸田市においても急速に感染が拡大しています。改めて一人一人が感染防止に努めなければならぬと強く思います。

わかくさ会のコロナ対策に向き合う基本姿勢は、「社会福祉事業の本旨から、事業をどう継続させていくかという姿勢で、コロナ感染防止対策や緊急時の支援方法など知恵を出し合って対応に努めます。」

この基本姿勢に基づいて具体的に次のことを徹底しています。

1 利用者、家族及び職員の健康状況の把握

2 作業所の対応
各作業所の状況の報告、消毒の徹底、3密の排除の徹底
利用自粛の利用者へ直接性を重視したメッセージの伝達など

3 相談事業所の対応

支援課題を整理し、面接の短時間化、相談者の健康状態を把握しながらマスクの着用、喚起に努めるなど

4 グループホームの対応

ホームでの生活を守るための万全な安全対策、利用者の健康管理の徹底など

5 職員対応

職員自身が感染しないよう公共交通機関を避け、自己防衛上自動車通勤の許可、密にならないための時差出勤、職員自身又は同居家族の発熱等の症状があったとき自宅待機の要請など

6 その他

コロナ感染防止対策上必要な衛生材料・消耗品の確保、第3者の入室制限など

コロナの終息にはまだ時間がかかりそうです。法人全体で情報共有に努め、職員が一丸となって「災い転じて福となす」という気持ちで取り組んでいます。

(事務長 吉川)

わかくさにおける新型コロナウイルス発生経験の振り返り

いつ、どこで、誰が感染しても不思議ではない、と覚悟していた新型コロナウイルスですが、わかくさでは11月に1名陽性者ができました。「家族が陽性になった」「発熱でPCR検査を受けた」などもあり、これからまた陽性となる人が必ず出るだろうと思ひ、現在対策にあたっています。

これまでのわかくさの経験で得た教訓は「初期対応が肝心」です。「感染リスクがあるかも」と分かった時が感染をそれ以上広げないチャンスなのです。

そのための対策の一つが、家族や関係者からの早期の情報収集です。利用者や職員の体調管理だけでなく、家族や関係者の体調不良についても報告をしてもらうようにしました。陽性となった方の場合にも、陽性者との接点があったという情報を事前にもらうことで、症状が出る前から他の利用者との接点を持たないようにゾーニングを行い、感染の拡大を防ぐことができました。

実は陽性となった方は、濃厚接

触者となっておらず、いつも通りの生活を送って良いと言われていましたが、「万が一」を考え、対処をしていたことが功を奏しました。

また、わかくさ利用者全員を感染リスクにさらさない、防げる可能性があるものは防ぐ！ということとを一番に考え、本人の体調不良時はもちろん、身近な人の体調不良の場合にも、通所を控えてもらうことをお願いするようになりました。

結果的に、お休みをお願いする利用者が増えています。このことはとても不本意です。ですが、施設内で感染が拡大してしまうと、それこそ数日の休みでは済まず、家族や関係者への感染波及や重症化や後遺症も心配です。「働きたい」「休みたくない」と言ってくれる利用者には休みをお願いすることは本当に心が痛みます。だからこそ、できる限り対策を講じ、完全閉所とならないようにしていきたいと思ひます。

(わかくさ 浜田)

コロナウイルス感染拡大の中 各事業所では元気に仕事をしています

イキイキとした皆さんの様子をご紹介します！



わかくさ

コロナに負けずみんな頑張っています！

かがやき



ゆいゆい



各事業所の取り組み

わかくさ

「働くこと」で地域とつながる

今年度はコロナ禍により、行事の中止や縮小、ボランティアの方のご協力も控えていただくなど、人との関わりが少なくなっています。この状況でも新たに地域とつながる、わかくさを知ってもらえることができないか検討してきました。また、作業においてもコロナ禍の影響により、受注の減少や停止があり、利用者みなさんのお給料にも影響がでていました。そのため「働くこと」と「地域」を絡めて新たな取り組みが出来ないか考えることとなりました。

その他にもわかくさの敷地内にアルミ缶の回収場所を設置しました。前出の広報紙を見て、わかくさまで缶を持ってきてくださる方も増えました。直接持ってきてくださることで顔が見える関係へとつながる機会となっております。



缶回収の場所はこちらです!!

また、新たな取り組みではないのですが、地域とのつながりが強い作業として北戸田駅周辺の清掃があります。地域の方と接する機会も多いため、こまめな消毒やマスクやフェイスシールドの着用を徹底するなど、感染対策に注意を払って取り組んでいます。

緊急事態宣言期間にはわかくさ自体の利用自粛の協力をお願いしていたため、清掃に行けないこともありました。清掃に行けるようになる、「たくさんゴミ拾ってね。」と張り切って出かけている利用者の姿に、彼らも地域を支えている1人なのだと思えて実感

しました。また、清掃中に地域の方から応援の声をいただけることもあり、継続していくことの大切さを感じました。

コロナ禍で様々なことを考える中で、改めてわかくさは地域の方々の協力や支えがあつて成り立っているのだと感じました。ありがとうございます。引き続き、地域とのつながりが深められるよう取り組んでまいります。

(わかくさ 石川)

ゆうゆう

清掃作業を通じての地域社会との交流

「おはよう！今日は寒いから気をつけなさいよ！」

「今朝は冷えるね！なるべく日向を歩いて暖まってるね！」

周囲に暖かい声掛けを頂きながら、毎日、戸田公園駅前の清掃に出ています。

駅前には、我々以外にも、様々な方がいます。駐輪場の管理の方、戸田競艇の清掃の方、駅ビルのテナントの方、駐車場のタクシーの運転手さん、毎日散歩している保育園の先生と子供たち。

皆さん、清掃に出ているゆうゆうの職員・利用者の顔を知ってくださっていて、応援の声掛けを頂くこともしばしばです。

私たち職員も利用者も、顔を見知った方々に（ソーシャルディスタンスを保ちつつですが）挨拶することが楽しみになっています。

「駅前をきれいにする」という仕事の意義と同時に、駅前という空間で人々と出会うという喜びが、利用者のモチベーションになっています。

利用者のコンディションは日によって様々で、大きな声が出てしまふこともありますが、しかし、「いつもの方々」の温かい視線が、我々の活動を支えてくださっています。

新型コロナウイルスの流行が続く日々ですが、心のこもった言葉を掛け合える地域社会が続くように、明日も駅前清掃に出かけます。

(ゆうゆう 地主)



かがやき

かがやきの取り組みについて

いつもとは違う静かな新年の幕開けとなった令和3年。昨年から続くコロナウイルスは未だ終息の見通しが立たず、不安の中で日常生活ですが、ワクチンの開発が進むなどわずかながら明るい兆しも見えてきています。

かがやきでは、コロナが流行し始めた当初から自治会や終礼時などに、コロナウイルスとはどういうものなのか？感染しない為にはどうしたらいいのか？所長をはじめめとし、みんなで話し合ってきました。第二波、第三波と押し寄せた流行の波に、慣れてしまう事がないよう、マスク着用・手洗いがい・かがやきに入る前に必ず消毒をするという事を徹底して行っています。また、本来ならみんなで談笑しながら食事をしたいところですが、テーブルを向かい合わせから一方方向にしてパーテーションを設置し、定期的にアルコール消毒するなど感染予防に努めています。「三密を避ける」という観点から、みんなで話し合い「更衣

室に入れるのは三人まで。」というルールを決めました。利用者さん一人一人の意識もあり、譲り合いながら利用しています。

コロナの影響から、色々な行事が中止となりましたが、自分達でできる事がないかとみんなで相談したところ過去のイベントや作業風景などの写真を集めてスライドショーをしようとの企画ができました。自治会の中で意見を出し合い、2月末の上映会に向けて楽しみながら計画をたてています。

早く、マスクなしでみんなが笑い合える日が来ることを願い、日々の作業を頑張っていきたいと思っています。

(かがやき 峯岸)



グリーングラス

コロナ対策下のホームの日常

あけましておめでとうございませう。本年もよろしくお願いいたします。

グループホームは昨年11月頃から新型コロナウイルスの影響を間近に感じています。小人数ではありますが、集団生活のためウイルスが広がる危険と隣り合わせです。そのため、一日二回の検温、換気、手洗い、マスク着用、消毒、リビングのパーテーション設置など、日々感染予防対策を行っています。日々検温はリビングで過ごす際はフェイスシールドをつけてもらっています。密を避けるため、早めに居室に戻って過ごしてもらい、検温を忘れていないと、おでこを出る方もいます。また、マスクが苦手だった方も段々と慣れてできるようになってきています。

利用者が毎年楽しみしている外出や三ホーム合同でのレク、外食はしばらくお預けになりましたが、

宅配を利用した誕生食事会の実施やDVD鑑賞など室内でできることを行っています。昨年末に第二上戸田では忘年会を行いました。ボリュームのある食事と、職員がオカリナでクリスマスソングを演奏して盛り上げてくれて楽しい時間でした。上戸田は特別メニューの一人用のお鍋が好評でした。

現在、ホームで陽性の方や濃厚接触の疑いがある方がいる場合に法人全体で職員応援体制を取っていただけるよう相談しています。コロナ対応・支援事業補助金はマスクや消毒液のほか空気清浄機や電動自転車を購入し、使わせていただいています。ありがとうございます。(グリーングラス 松岡)



わかば

コロナ禍の下、昨年からはリモート在重を開始

わかばでは在宅重度障害児者訪問支援事業（在重）を行っていません。在宅の重症心身障害者の方の自宅を訪問し、コミュニケーション方法、日常生活動作等、生活の質の向上を図るための支援です。しかし、新型コロナウイルスの影響で、昨春から訪問を中止してしまいました。私が担当しているのは二十代の可愛らしい女性、四肢体幹機能障害のため寝たきりで、小まめな痰吸引が欠かせず、感染症のリスクも高い方です。本人と母からの要望もあり、昨年11月に久しぶりに訪問したのですが、その頃には第三波がきており、一回きりの訪問で断念せざるを得ない状況となりました。でも、その時に本人がモバイルに興味をもっている、と母から聞き、その場で本人に確認するとニコニコしながらYESのサイン。そこで、次からは「リモート在重」にトライしようということになりました。



私も母もアナログ人間のため、最初はビデオカメラが片方映らない状態で互いに通話していましたが、そのやりとりを本人はとても楽しんでいただけました。昨年クリスマススワイヴの日に「リモート在重」は成功し、一緒にクリスマスをお祝いし、母と私は歌を歌い、本人はタンバリンを元気よく叩きました。楽しかったようで、何回も同じ歌のリクエストがありました。母は本人の顔が良く見えるようにスマホを調整したり、痰吸引をしたりしながら、歌も歌うという状況だったので大変だったと思いますが、母も次を楽しみにしてくれています。普段は主に来所面談をしたり、同行支援をしたりしています。わかばですが、「リモート在重」という新しいことにも挑戦していきます。（わかば 吉長）

ひかり

ひかりの新たな取り組み

社会全体が新たな生活様式を模索し、私たち一人ひとりの生活スタイルや生活習慣も、これまでとは違う形が求められて来ました。生活の変化や活動制限に伴う負担やストレスは大きく、様々な影響をもたらしています。この状況を柔軟に受け入れプラスに転じたエピソードもありました。マスクが苦手な方が練習を重ねて着用できるようなったり、建物を出入りする際の手洗いや手指消毒が当たり前の行動として自ら自然にできるようなったりと、新型コロナウイルスが収束した後も活用できる衛生習慣が身についた方もいます。マスク着用やソーシャルディスタンスが、人間関係に苦手さを持つ方にとっては好都合となり、長年の引きこもり生活に区切りをつけて社会参加への一歩を踏み出した方もいます。コロナ禍で誰もが生きづらさや苦勞を抱えています。相談者一人ひとりの生活が少しでも快適に過ごしやすいよう、



一緒に考え工夫を重ねていきたいと願っています。さて、今年の新たな取り組みとして、4月より計画相談を専門に行う特定相談支援事業所『大地』の開設を予定し、そのための人材確保を進めています。これにより、『ひかり』は委託の相談事業所として基本相談に専念し、相談支援体制の充実に取り組みます。また、新年度より『埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校』が開校され、蕨・戸田・川口から高等部の学生が集まります。『大地』では、ご要望に応じて、市外の方にも対応できる計画相談体制を目指していきたいと思えます。今年も引き続きどうぞよろしく願います。（ひかり 高野）

戸田市障害者 就労支援センター

◇コロナ禍の就労支援

コロナウイルスの影響で、障害のある方の働き方も変化しました。在宅勤務やテレワーク、変則的な勤務になり、生活リズムが整いにくくなった方も数多くいます。在宅勤務などで不安を感じている方に電話で近況の聞き取りや、面談を行って対応しています。感染防止のために職員が定着支援の企業訪問を控えることもあり、職場訪問をリモート会議に変更し行うことも増えました。職場実習を受け入れる企業の数が減って、採用に消極的な企業もあります。このような状況ですが、企業や関係機関と連携をより深め、障害のある方の「働きたい」が実現できるように応援していきたいと思えます。

◇楽々サロン

戸田市障害者就労支援センターでは、毎月第3土曜日の11時から13時まで楽々サロンを行っています。精神障害のある当事者の会として、「お互いが、お互いを支えあう、ほっとできる場」をめざして、昨年の6月から定期開催を行っ

てきました。コロナ対策として、手洗い・消毒・検温・マスク着用・飛沫防止ボード設置・換気・ソーシャルディスタンスを徹底しています。参加者の皆さんは、就労中の方、求職中の方もいるため、お互いが日常で悩んでいること、気をと話し合い、意見交換をしています。感染が落ち着いたらお茶やお菓子をつまんで、よりほっとできる雰囲気を作りたいと思っています。



◇就労相談会

昨年に引き続き、戸田市役所会議室を会場にして、偶数月の第3金曜日に就労相談会を開催しています。昨年はポスターを登録利用者に描いていただき公共施設に掲示しました。障害福祉課には、戸田市広報誌の記載や戸田市のツイッターなどSNSで発信の協力も得ました。コロナの影響もあり、4月は中止になりましたが、相談の方は少ないのですが、就労支



援センターを身近に感じてもらうよう、多くの方に発信する活動を行っていきます。昨年は、生活に係る悩みを持っている方が多く、戸田市の地域連携の大切さを実感した一年でした。

援センターを身近に感じてもらうよう、多くの方に発信する活動を行っていきます。昨年は、生活に係る悩みを持っている方が多く、戸田市の地域連携の大切さを実感した一年でした。

(就労C 竹中)

みなみ

昨年はコロナの対応に追われた1年になりました。4月の緊急事態宣言もありサロン活動をはじめ様々な活動が制限されてきました。

このように話をしているとコロナによってできないことばかりになってしまっているので、このコロナ禍でもできたことをご報告したいと思います。

◆きょうとに着目

みなみとしては、9月以降は感染症対策（検温、手指消毒、アクリル板設置、常時換気）をとりながらでき



ることから行っていききました。今までは対面の面談を基本としていましたが、ビデオ電話を用いた面談や電話相談の体制をとりました。

実施件数は少ないですが、対面の面談に不安を感じる方の相談に応じることができました。事業所としても相談形態の選択を増やすことができました。

相談者同士の交流の場としてサロン活動を行ってききましたが、6月に予定していた良暇余暇サロン（知的障害のある方を対象）を中止した代わりにホームページ上で近況報告会を行い14名の方が原稿を寄せてくださいました。また、ピアサポートの位置づけとして交流スペースの会を変更して語ろう会として少人数での開催し、普段あまり話をしない仕事の内容や小場での困りごと、将来の考え等を話し合いました。

精神障害の方を対象とした湧々サロンも感染症対策、6名の少人数開催で実施することもできました。語り部を聞きグループワークでお互いの気持ちを持ちを語り合いました。

コロナによって『新しい生活スタイル』と言われ、社会全体が変化を迫られています。感染予防対策をしたうえで、今までの取り組みの見直しや工夫によってできること、新たな取り組みなど考えていきたいと思えます。

(みなみ 酒井)

表現活動

豊かな表現に光りをあてて

第11回目となる埼玉県障害者アート企画展が昨年12月2日～6日、埼玉県立近代美術館にて開催され、わかくさ会からも2名の利用者が選ばれ展示されました。

これらの作品は、普段、作者本人からアピールされることもなく、日常のなかでもすると見過ごされることも多いかもしれません。しかし、そこに誰かが光を当て、アート作品として展示されることで初めて、身近なご家族も支援者も、その方の表現の豊かさや秘めた可能性に驚かされ、気づかされます。今回も、74名の方の作品が一堂に会した会場は、多種多様な思いもよらない自由な表現の力に溢れ、観る者の五感を揺さぶり圧倒していました。彼らの豊かな感性や表現力を発見し、生かそうとする試みは、我々支援者が知識だけでなく、体全体で利用者を理解する、その感性を磨くということに繋がるのかもしれない。

また戸田市においては、市役所



武蔵野銀行戸田西支店の展示風景

ロビーでの作品展、武蔵野銀行戸田西支店でのカレンダー原画展がおこなわれました。市役所や銀行といった多くの市民が利用する場所での展示は、本人の表現活動への意欲を高めるだけでなく、作品を目にした人が障害福祉に対して興味を持つきっかけにもなります。

この取り組みを通して、戸田市で共に暮らし、働いている障害者を持った方々を少しでも知っていただけるとうれしいです。

(表現活動 高野・山内)

お知らせ

◆戸田市障害者就労支援センター「就労相談会」

日付…2月19日(金)

4月23日(金)

※開催場所等詳細はセンターにお問い合わせください。

※新型コロナウイルスの状況により中止する場合がありますので

お問い合わせください。

問合せ…障害者就労支援センター

☎048-471-9333



◆各行事の実施について

新型コロナウイルスの対策により各事業所の行事等の実施についてはホームページでの掲載の確認や直接担当事業所に問い合わせ下さい。



(編集後記)

新型コロナウイルスの国内感染が始まってから1年が経過しようとしています。今年度は緊急事態宣言などコロナの影響で施設内の行事が無くなり、利用者の方や職員にとっても楽しみの部分が制限されてきました。今できる範囲の中またちょっとした工夫で、小さな楽しみを見つけていきたいと思えます。(酒井)

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者生活支援センターひかり、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、

(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>



facebookもやっています

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 戸田市新曽1522-1

TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298